



2025年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2025年2月6日

上場会社名 株式会社雪国まいたけ 上場取引所 東
 コード番号 1375 URL <https://www.maitake.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 湯澤 尚史
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画本部副本部長 兼 IR・広報部長 (氏名) 岩谷 俊一郎 TEL 025 (778) 0162
 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	39,568	10.9	4,311	19.4	4,139	27.3	2,686	25.8	2,689	26.2	2,688	25.7
2024年3月期第3四半期	35,669	9.9	3,611	24.9	3,252	25.2	2,135	23.2	2,130	23.0	2,137	23.3

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	67.43	67.42
2024年3月期第3四半期	53.44	53.43

(参考)

	売上収益		コア営業利益		コアEBITDA		コアEBITDA マージン
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%
2025年3月期第3四半期	27,216	12.0	3,088	39.8	4,856	26.0	17.8
2024年3月期第3四半期	24,309	5.4	2,208	△4.9	3,855	△0.8	15.9

(注) 2025年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映しております。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	40,395	13,790	13,626	33.7
2024年3月期	38,260	11,610	11,446	29.9

(注) 2025年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	1.00	-	10.00	11.00
2025年3月期	-	3.00	-		
2025年3月期（予想）				9.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,990	5.3	2,620	△6.4	2,370	6.4	1,570	15.7	1,550	14.8	38.87

(参考)

	売上収益		コア営業利益		コアEBITDA		コアEBITDA マージン
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%
通期	36,770	9.9	2,840	10.6	5,190	8.1	14.1

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
 2. 2025年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、対前期増減率については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させた後の前期数値と比較して記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	39,910,700株	2024年3月期	39,910,700株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	6,661株	2024年3月期	16,667株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	39,890,931株	2024年3月期3Q	39,878,835株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(その他特記事項)

- (1) 当社グループは、国際会計基準（以下「IFRS」という。）を適用しております。
- (2) コア営業利益＝営業利益－IAS第41号「農業」適用による影響額－その他の収益及び費用－一時的な収益及び費用
- (3) コアEBITDA＝コア営業利益＋減価償却費及び償却費
- (4) コアEBITDAマージン＝コアEBITDA÷売上収益
- (5) IAS第41号「農業」適用による影響額とは、IAS第41号「農業」を適用し、きのこの生産工程である仕込みから収穫時までのきのこを生物資産として、売却費用控除後の公正価値で測定するものであり、当該公正価値の変動による利得及び損失を影響額としております。
- (6) その他の収益及び費用とは、主に減損損失、固定資産除却損等となります。
- (7) 一時的な収益及び費用とは、通常の営業活動では発生しない一過性の収益及び費用となります。前第3四半期連結累計期間においては、2023年12月4日付にて実施いたしました海外事業会社の株式取得に関する費用を一時的な費用としております。当第3四半期連結累計期間においては、一時的な収益及び費用の発生はありません。
- (8) コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンはIFRSにより規定された指標ではなく、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社グループが有用であると考えられる財務指標であります。当該財務指標は、非経常的損益項目及び競合他社に対する当社グループの業績を適切に示さない項目の影響を除外しております。なお、コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、IFRSに準拠して表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではありません。当社グループにおけるコア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、同業他社の同指標あるいは類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があり、その結果、有用性が低下する可能性があります。

(決算補足説明資料（決算説明資料）の入手方法について)

決算補足説明資料（決算説明資料）は、T D n e t で開示するとともに、2025年2月6日付にて当社ウェブサイトに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報)	11
(1株当たり利益)	12
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年12月31日）における国内経済は、インバウンド消費の増加傾向が継続し、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、国内の慢性的な人手不足や中東情勢の地政学的リスク、急激な為替相場の変動等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当事業を取り巻く環境は、世界的な異常気象や円安に伴う原材料高、物流費の上昇、包装資材の価格高騰などを背景とした食品の値上げが相次いだことで、消費者の節約志向は継続しております。

このような経済環境の中、当社グループは、2023年12月に刷新いたしました中期経営計画の達成に向け、国内・既存事業の更なる強化に留まらず、海外市場や新規領域へ積極展開し、多様な事業ポートフォリオを構築するべく活動を進めております。その具体施策といたしまして、前連結会計年度のオランダ進出による本格的な海外展開に続き、当連結会計年度におきましては、新規事業として取り組んできた、きのこの「代替肉」の発売を予定しております。

この大きな転換期を迎えるにあたり、当社は、2024年6月26日開催の第7期定時株主総会におきまして商号の変更による定款一部変更議案の承認をいただき、2025年4月1日よりユキグニファクトリー株式会社（英文商号：YUKIGUNI FACTORY CO., LTD.）に社名（コーポレートブランド）を刷新することといたしました。自らのコアバリュー・独自性を改めて見直し、引き継いでいくべき伝統と信頼、そして未来に向かってのあるべき姿を見据え、その思いと決意を胸に、このたび相応しい社名に一新いたします。なお、今回の商号変更に至った背景、新たな価値観、ブランド構成イメージ等につきましては、2024年6月3日付にて当社ホームページで公表いたしました「社名（コーポレートブランド）刷新の背景と目的について」をご覧ください。

今までも、そしてこれからも、自然からの恩恵であるきのこの可能性を、雪国で磨いた技術や探求心により最大限引き出し魅力的な製品を開発することで、持続的な成長へと繋げてまいります。

当第3四半期連結累計期間の収益は、39,568百万円（前年同期比10.9%増）、このうち、売上収益は27,216百万円（同12.0%増）となりました。また、売上総利益は、11,094百万円（同11.2%増）となりました。販売費及び一般管理費は、6,721百万円（同4.0%増）となりました。

以上の結果、営業利益は、4,311百万円（同19.4%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、2,689百万円（同26.2%増）となりました。なお、当第3四半期連結累計期間においては、IAS第41号「農業」の適用に関する公正価値変動による利得が、収益に12,351百万円（同8.7%増）、売上原価に11,000百万円（同13.4%増）、それぞれ含まれております。

[2025年3月期第3四半期連結累計期間業績]

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	増減率 (%)
売上収益	24,309	27,216	12.0
公正価値変動による利得	11,359	12,351	8.7
収益合計	35,669	39,568	10.9
営業利益	3,611	4,311	19.4
税引前四半期利益	3,252	4,139	27.3
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,130	2,689	26.2

当第3四半期連結累計期間における事業セグメント別の売上収益の状況は、次のとおりであります。

〔茸事業〕

① まいたけ

ヘルシー且つ旨味成分豊富なまいたけを、消費者の皆様のニーズに合わせて手軽に美味しく調理していただけるよう、他食品メーカーとの共同企画により、季節に応じた幅広いメニュー提案を展開する等、まいたけの魅力や調理の汎用性の高さを訴求した販売施策に取り組み、需要拡大を推進しております。また、当社の強みである白まいたけを含めた商品ラインアップは、各種定量商品や量り売り商品、大株商品まで豊富に取り揃え、店頭シェアの拡大及びプレミアムブランド戦略の強化に努めることで、前年同期に比べ販売量、販売単価はいずれも上回りました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、まいたけ事業の売上収益は、14,661百万円（前年同期比8.0%増）となりました。

② エリンギ

小型パックから大型パックまで各種量目を取り揃えた定番トレー製品をはじめ、利便性の高いスライス製品等、お客様ニーズに応じた多様な商品提案に取り組んでおります。また、小売店の店頭企画として、エリンギもぎ取り体験会の開催等、食育の一環となる販促活動を実施し、好評をいただきました。前年同期に比べ販売量は減少いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、エリンギ事業の売上収益は、2,819百万円（同3.6%増）となりました。

③ ぶなしめじ

青果市況と市場の動向を注視しながら、需給バランスに応じて1株製品と2株製品といった量目の異なる製品を活用した柔軟な製品投入を実施し、安定供給に取り組んでおります。販売量はほぼ前年並みとなりましたが、販売単価は上回りました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、ぶなしめじ事業の売上収益は、5,450百万円（同9.7%増）となりました。

④ その他の茸

マッシュルームは、生産状況の安定化に注力するとともに、販促企画の実施等により販売強化及び新たな需要創造に取り組んでおります。これにより、前年同期に比べ販売は上回りました。また、2023年12月に当社グループ傘下におさめました海外事業会社にて扱うマッシュルーム、エキゾチック・マッシュルーム（シイタケやヒラタケなど、日本国内にて呼称されるマッシュルーム以外のきのこの総称）の売上収益が、本セグメントの売上収益に含まれているため、前年同期に対し大きく上回っております。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、その他の茸事業の売上収益は、4,055百万円（同44.4%増）となりました。

〔その他〕

その他の売上収益は、主に健康食品の販売及び瑞穂農林株式会社を取り扱う培地活性剤によるものであります。当第3四半期連結累計期間においては、培地活性剤の製造及び販売は好調に推移いたしました。健康食品の販売量は減少いたしました。この結果、その他の売上収益は、229百万円（同0.9%減）となりました。

各事業セグメント別売上収益は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自2023年4月1日 至2023年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自2024年4月1日 至2024年12月31日）	増減率 （%）
茸事業	24,077	26,986	12.1
まいたけ	13,577	14,661	8.0
エリンギ	2,722	2,819	3.6
ぶなしめじ	4,969	5,450	9.7
その他の茸	2,808	4,055	44.4
その他	231	229	△0.9
売上収益	24,309	27,216	12.0

(2) 当四半期の財政状態の概況

① 財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末(2024年12月31日時点)の資産合計は、40,395百万円(前連結会計年度末比2,134百万円増)となりました。流動資産は、13,055百万円(同2,440百万円増)となりました。これは主に、公正価値変動による利得により生物資産が1,289百万円、営業債権及びその他の債権が1,147百万円、それぞれ増加したこと等によるものであります。非流動資産は、27,339百万円(同305百万円減)となりました。これは主に、有形固定資産が228百万円、使用権資産が45百万円、のれん及び無形資産が31百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、26,604百万円(同45百万円減)となりました。流動負債は、10,112百万円(同833百万円増)となりました。これは主に、営業債務及びその他の債務が636百万円、未払法人所得税が508百万円、預り金等を含むその他の金融負債が99百万円、それぞれ増加した一方、未払費用等を含むその他の負債が278百万円、引当金が177百万円、それぞれ減少したこと等によるものであります。非流動負債は、16,491百万円(同879百万円減)となりました。これは主に、借入金が837百万円、リース負債が37百万円、それぞれ減少したこと等によるものであります。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末の資本合計は、13,790百万円(同2,179百万円増)となりました。これは主に、四半期利益の計上等により利益剰余金が2,171百万円増加したこと等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ81百万円減少し、2,716百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、2,923百万円(前年同期は3,044百万円の獲得)となりました。これは主に、税引前四半期利益4,139百万円、減価償却費及び償却費1,775百万円、営業債務及びその他の債務の増加額503百万円の計上があった一方、生物資産の増加額1,288百万円、営業債権及びその他の債権の増加額1,168百万円、法人所得税の支払い959百万円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,484百万円(前年同期は2,030百万円の使用)となりました。これは主に、茸事業に係る設備更新等に伴う有形固定資産の取得による支出1,445百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,521百万円(前年同期は1,146百万円の獲得)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出844百万円、配当金の支払い519百万円、リース負債の返済による支出157百万円があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2024年5月9日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当該業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2024年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	2,797	2,716
営業債権及びその他の債権	3,211	4,359
未収法人所得税	-	9
棚卸資産	1,476	1,602
生物資産	2,939	4,228
その他の資産	189	138
流動資産合計	10,615	13,055
非流動資産		
有形固定資産	19,621	19,392
投資不動産	95	95
のれん及び無形資産	6,025	5,993
使用権資産	261	216
退職給付に係る資産	303	304
その他の金融資産	213	219
繰延税金資産	1,053	1,053
その他の資産	69	63
非流動資産合計	27,645	27,339
資産合計	38,260	40,395

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2024年12月31日)
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	3,570	4,207
未払法人所得税	940	1,448
従業員給付に係る負債	2,138	2,184
1年内返済予定の長期借入金	1,422	1,422
リース負債	137	136
引当金	177	0
その他の金融負債	115	214
その他の負債	776	497
流動負債合計	9,278	10,112
非流動負債		
借入金	16,857	16,020
リース負債	196	159
繰延税金負債	165	159
引当金	21	21
その他の金融負債	130	131
その他の負債	0	0
非流動負債合計	17,370	16,491
負債合計	26,649	26,604
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	△6,067	△6,070
利益剰余金	17,405	19,576
自己株式	△17	△7
その他の資本の構成要素	25	27
親会社の所有者に帰属する持分合計	11,446	13,626
非支配持分	164	164
資本合計	11,610	13,790
負債及び資本合計	38,260	40,395

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
収益		
売上収益	24,309	27,216
公正価値変動による利得	11,359	12,351
収益合計	35,669	39,568
売上原価 (*1)	25,691	28,473
売上総利益	9,977	11,094
販売費及び一般管理費	6,463	6,721
その他の収益	176	79
その他の費用	78	141
営業利益	3,611	4,311
金融収益	0	9
金融費用	360	181
税引前四半期利益	3,252	4,139
法人所得税費用	1,116	1,452
四半期利益	2,135	2,686
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	2,130	2,689
非支配持分	5	△3
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	53.44	67.43
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	53.43	67.42

経営者は同業他社との比較可能性を勘案し、「材料費、人件費等」の情報は財務諸表利用者にとって有用であると考えていることから、要約四半期連結損益計算書に注記として自主的に開示しております。「材料費、人件費等」は、IAS第41号「農業」に基づき認識した公正価値変動による利得を含まない当社グループが販売した製品の製造原価及び商品の仕入原価であります。

(*1) 売上原価の内訳		
材料費、人件費等	15,993	17,472
公正価値変動による利得	9,697	11,000
合計	25,691	28,473

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
四半期利益	2,135	2,686
その他の包括利益 (税効果控除後)		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 資本性金融資産	5	0
純損益に振り替えられることのない項目合計	5	0
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の外貨換算差額	△3	0
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△3	0
その他の包括利益 (税効果控除後) 合計	1	1
四半期包括利益	2,137	2,688
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	2,132	2,691
非支配持分	5	△3

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2023年4月1日残高	100	△6,012	16,341	△33	14	10,409	△0	10,409
四半期利益	-	-	2,130	-	-	2,130	5	2,135
その他の包括利益	-	-	-	-	1	1	-	1
四半期包括利益合計	-	-	2,130	-	1	2,132	5	2,137
株式報酬取引	-	△4	-	15	-	10	-	10
剰余金の配当	-	-	△279	-	-	△279	-	△279
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替	-	-	2	-	△2	-	-	-
その他	-	△51	-	-	-	△51	153	101
所有者との取引額等合計	-	△56	△276	15	△2	△320	153	△167
2023年12月31日時点の残高	100	△6,069	18,196	△17	12	12,221	158	12,379

当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2024年4月1日残高	100	△6,067	17,405	△17	25	11,446	164	11,610
四半期利益	-	-	2,689	-	-	2,689	△3	2,686
その他の包括利益	-	-	-	-	1	1	-	1
四半期包括利益合計	-	-	2,689	-	1	2,691	△3	2,688
株式報酬取引	-	△3	-	10	-	7	-	7
剰余金の配当	-	-	△518	-	-	△518	-	△518
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替	-	-	0	-	△0	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	3	3
所有者との取引額等合計	-	△3	△518	10	△0	△511	3	△508
2024年12月31日時点の残高	100	△6,070	19,576	△7	27	13,626	164	13,790

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	3,252	4,139
減価償却費及び償却費	1,654	1,775
支払利息	302	168
シンジケートローン手数料	12	-
固定資産売却損益 (△は益)	△3	-
固定資産除却損	59	109
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△1,796	△1,168
棚卸資産の増減額 (△は増加)	21	△125
生物資産の増減額 (△は増加)	△1,630	△1,288
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	1,790	503
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△6	△0
従業員給付に係る負債の増減額 (△は減少)	138	45
その他	25	△144
小計	3,820	4,012
利息の支払額	△93	△125
シンジケートローン手数料の支払額	△11	△3
法人所得税の支払額	△691	△959
法人所得税の還付額	21	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,044	2,923
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,150	△1,445
有形固定資産の売却による収入	3	-
無形資産の取得による支出	△0	△2
子会社株式の取得による支出	△856	-
その他	△26	△36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,030	△1,484
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の借入による収入	4,300	2,000
短期借入金の返済による支出	△2,500	△2,000
長期借入金の借入による収入	1,323	-
長期借入金の返済による支出	△1,540	△844
リース負債の返済による支出	△154	△157
配当金の支払額	△281	△519
その他	-	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,146	△1,521
現金及び現金同等物に係る為替変動の影響額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,160	△81
現金及び現金同等物の期首残高	1,060	2,797
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,221	2,716

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

① 報告セグメント

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会（最高経営意思決定者）が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスについて、包括的な戦略を立案し、事業活動を展開している「茸事業」を報告セグメントとしております。「その他」は報告セグメントに含まれない事業が含まれております。

なお、まいたけ事業、エリンギ事業及びぶなしめじ事業等は、売上収益の推移など経済的特徴が概ね類似しており、かつ、(a) 製品及びサービスの性質、(b) 生産過程の性質、(c) 当該製品及びサービスの顧客の類型又は種類、(d) 当該製品の配送又は当該サービスの提供のために使用する方法、(e) 規制環境の性質のすべてが類似しているため、「茸事業」として集約してしております。報告セグメントの事業内容は次のとおりであります。

	事業内容
茸事業	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじ等、茸製品の製造販売

② 報告セグメント情報

報告セグメントの会計処理の方法は、当社グループの会計方針と同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上収益は市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	24,077	231	24,309	-	24,309
セグメント間の内部売上収益	-	-	-	-	-
計	24,077	231	24,309	-	24,309
セグメント利益（△は損失）	3,582	38	3,621	△9	3,611
金融収益					0
金融費用					360
税引前四半期利益					3,252

(注) セグメント利益（△は損失）の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

当第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	26,986	229	27,216	-	27,216
セグメント間の内部売上収益	-	-	-	-	-
計	26,986	229	27,216	-	27,216
セグメント利益（△は損失）	4,297	30	4,327	△16	4,311
金融収益					9
金融費用					181
税引前四半期利益					4,139

(注) セグメント利益（△は損失）の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

(1株当たり利益)

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定基礎は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	2,130	2,689
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	-	-
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	2,130	2,689
期中平均普通株式数(千株)	39,878	39,890
基本的1株当たり四半期利益(円)	53.44	67.43
希薄化後1株当たり四半期利益算定上の基礎		
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	2,130	2,689
四半期利益調整額(百万円)	-	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	2,130	2,689
期中平均普通株式数(千株)	39,878	39,890
譲渡制限付株式報酬制度による普通株式増加数(千株)	3	3
希薄化後期中平均普通株式数(千株)	39,881	39,894
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	53.43	67.42

(重要な後発事象)

該当事項はありません。